



オリエンタル
コンサルタンツ

野崎 秀則 社長

チャレンジする気風確立

安全・安心のためのインフラ整備にとって追い風になる国土強靱化基本法が昨年12月に成立。「前政権よりも先の見通しは明るい、そこに甘んじているのは好ましくない。(好環境は)1年、長くて2年と違って次のことを考えないといけない。気を緩めてはいけない」

4事業、その個別事業を横ぐし、でつなぐ地域活性化や事業経営など統合4事業の計8事業を重点化事業と位置付けている。同事業の2013年9月期受注高は約140億円で全体の3分の1強だったが、3年後は220億円で5割強を目指している。

「次のステップを考えると、うことは、重点化事業をしかり行い、新しい事業モデルをつ

制している。「チャレンジする気風になりつつある」と、社内の変化に手応えを感じている。今後の成長基調に備え、体制の強化にも力を入れる。「国内は40人、海外は10人の年間計50人を純増する」。採用者数を増やすとともに、中途退職者を抑制しなければ達成できない。長時間労働の解消や給料アップなど処遇改善の「情熱とやりがい」

くることがだ」。官公庁からの受注だけでなく、自ら事業を創出する方針も既に打ち出している。「受注業務だけで手一杯なのに、投資などできないと絶対に言わせてはいけない」。品質確保のためだけでなく、投資余力を確保するためにも受注は抑

プロジェクト」を昨年スタートさせ、自らが責任者を務めている。「海外部門も成長への基盤を固める」。廣谷彰彦会長が本部長に就任したほか、人財室と現地法人統括室を本部長のスタッフ部門として新設、12部門の4グループ制再編など矢継ぎ早に

対策を講じた。グループ全体で20年に売上高500億円を掲げている。実現するには、海外事業の成長が不可欠となるためだ。昨年3月にオリエンタル群馬を設立した。オリエンタルを代表とするJVが12年度から3年間、群馬県立敷島公園(前橋市)の指定管理者を務めている。単に、施設の管理業務で終わらせるともならない。「敷島公園を軸に地域を活性化していく」。公園をベースに、教育・福祉や再生可能エネルギー、防災、商業・農業活性化、観光などを展開する。教育では、スペインのサッカーチーム、レアル・バジャドリッド(1部リーグ)を招致してサッカー教室を開いた。「太陽光発電や観光など要素技術のノウハウを盛り込み、地域活性化の全体像を描けるのはコンサルタントだ」